



もくじ

- 「2015年問題」……………1
- 平成27年度運営方針及び
事業計画……………2
- 平成26年度事業報告……………3
- 施設紹介……………4
- 編集後記……………7
- 事務局コラム……………7
- 会員名簿……………8

「2015年問題」

奈良県老人福祉施設協議会 会長 辻村 泰範

高齢者の福祉や介護を取り巻く環境が、大変厳しいものになってきていることを、誰もが実感するようになってきたのではないのでしょうか。

4月から特別養護老人ホームには原則として要介護度3以上の人でなければ入所できなくなりました。また8月からは介護サービスを利用した場合に支払う利用料も、一定以上所得がある方には二割の負担をしていただくことになりました。

一方では、介護サービスを提供している事業者を支払われる報酬もかなり減額されています。

昭和22年から24年生れの人々を団塊

の世代と呼びます。日本の人口を年齢で区切った場合突出して多い世代だからですが、この人達が全て65歳以上になるのが2015年なのです。

関係者の間では2015年問題として日本の社会保障制度を考える上で大きくとりあげられてきました。年金、医療、介護などに要する費用が急激に増加するからです。そして加えて日本ではどんどん少子化が進んでいます。介護を支える人材をどこに求めればいいのでしょうか。どのような仕組みに変えてゆく必要があるのか。私たちはまさしく不都合な真実に直面しています。成熟社会につきつけられた課題です。

平成27年度運営方針及び事業計画

「2025年に向けた地域包括ケアシステムの構築」をスローガンとした介護保険制度改正を受け、我々老人福祉施設は、施設でも地域でも安心して暮らすことができる地域の福祉拠点の役割をますます発揮していくことが期待されています。一方、過去に例をみない減額となった介護報酬の改定は、入所者や利用者へのサービスの質を低下させず、且つ職員への処遇改善がなされるよう経営・運営努力が求められています。

また、厚生労働省・社会保障審議会福祉部会報告書「社会福祉法人制度改革について」がまとめられ、「公益性や非営利性の確保」、「国民への説明責任」、「地域社会への貢献」の視点による制度見直しの方向が示され、社会福祉法人としても改革が求められています。

このような課題に対し、各部会並びに専門委員会を中心とした会員施設同士の協議・検討を積極的に進め、奈良県における高齢者福祉の更なる向上を牽引する役割を発揮していきます。

* 情報の収集及び発信

1. 法人、施設の運営及び経営に資する情報を収集・共有する。全国組織、近畿ブロック、本協議会の活動を通じて国、県、その他関係団体との連携を深め必要な情報の収集と提供につとめる。
2. 法人、施設の抱える現場の課題にもとづき、本協議会の活動を通じて必要な施策の創設や改善について関係当局に要望や提言を行う。
3. 地域社会に対し情報を発信し、高齢者福祉の増進について啓発する。

* 利用者本位のサービス提供とサービスの質の向上のための事業に取り組む。

1. 施設種別・職種別に求められる専門性向上のための研修を行う。
2. 福祉・介護人材の確保と定着の課題に積極的に取り組む。

* 地域福祉・在宅福祉に資する研究・研修事業の推進

1. 在宅福祉サービス、介護予防サービス、地域密着型サービスのあり方について検討し、地域福祉の向上に資する研究・研修事業を推進する。
2. 地域での多様な生活課題に対応した社会福祉施設の公益的な役割を検討していくため、県内種別施設協議会と連携・協働し、県内における現状と今日的な課題を把握・整理する。

* 関係機関・団体との連携

県内外の関係機関・団体と連携協調し、本協議会の目的遂行のために必要な事業について積極的に推進する。

広報啓発委員会

委員長 大森 岩一郎（榎原園）

1. 機関誌「あおによし」の発行…平成27年9月、平成28年2月

2. 老施協ホームページの運営
3. 介護の日（11月11日）啓発事業
4. 介護と仕事の両立支援事業（新）

テーマ別研修委員会

委員長 植田 誠（やすらぎ園）

1. 第28回奈良県老人福祉施設職員研究会議
……………平成28年2月9日
2. テーマ別職員研修会……………1回

職種別研修委員会

委員長 山本 忠行（テンダーヒル御所）

1. 介護福祉士ファーストステップ研修
……平成27年7月～平成28年1月（計13回）
2. 介護職員実践講座（新）
……平成27年5月～平成28年1月（計5回）
3. 生活相談員研修
4. 看護職員研修……………平成27年11月
5. 施設介護支援専門員研修
6. 施設長研修……………平成27年11月
7. 事務職員研修（新）

調査研究委員会

委員長 森川 敬介（美吉野園）

1. 施設経営実態調査分析事業
2. 特養入所申込者実態調査
3. 予算対策事業

サービスの質向上委員会

委員長 秋吉 美由紀（ならやま園）

1. サービスの質向上研修

地域貢献検討委員会

委員長 林 芳繁（ひびきの郷）

1. 地域貢献セミナー

各種別部会

1. 特養部会栄養士研究会
……………平成27年5、11月、平成28年2月
2. 養護老人ホーム職員研修……………年1回
3. オープンセミナー……………平成27年7月
4. 軽費ケアハウス部会特定施設入居者生活介護指定施設連絡会
5. 在宅サービス研修……………年1回

その他

1. 災害初動時相互支援システムの運用
2. 地域密着型サービス連絡会
3. 福祉人材確保モデル事業（新）

平成26年度事業報告(平成26年1月～3月)

本紙 23 号(2 月 1 日)発行後に実施いたしました事業についてご報告いたします。

●栄養士研究会

第 3 回 平成 27 年 2 月 5 日(木)、橿原市中央公民館にて、下記の内容で開催し、41 名の参加をいただきました。

①調理実習「やわめしの調理実習」

～常食とやわめしを比べて～

講師：有限会社 宮

食事サービス調理部長 松本 健 氏



松本 調理部長

●生活相談員いとも

平成 27 年 2 月 14 日(土) 県社会福祉総合センターにて、下記の内容で開催し、7 名の参加をいただきました。

テーマ：「『レジデンシャル・ソーシャルワーク・インディケーター』を持ち寄って読み解こう」

助言：龍谷大学短期大学部社会福祉学科

准教授 伊藤 優子 氏

●介護保険制度改正・介護報酬改定対策セミナー

平成 27 年 1 月 13 日(火) 橿原観光ホテルにて、下記の内容で開催し、113 名の参加をいただきました。

①行政説明 県長寿社会課

②講演「2015 年どう変わる介護保険制度・介護報酬～2018 年そして 2025 年を見据えて～」

株式会社 ウェルビー 代表取締役 青木 正人 氏

●養護老人ホーム施設職員研修会

平成 27 年 3 月 11 日(水) かしはら万葉ホールにて、下記の内容で開催し、27 名の参加をいただきました。

①情勢報告：大森 岩一郎(老施協副会長)

②講演・演習：「高齢者の尊厳と職業倫理」

特別養護老人ホームゆあほうむ榛原 副施設長

玉利 佳代子 氏(介護福祉士ファーストステップ研修講師)

グループディスカッション 1

「高齢者の尊厳保持の実現に向けて」

グループディスカッション 2

「今。そして…」

洛南寮 支援員

井口 妙子 氏



井口 支援員

●在宅サービス職員研修会

平成 27 年 2 月 28 日(土) 県社会福祉総合センターにて下記の内容で開催し 49 名の参加をいただきました。

テーマ：「在宅生活を支えるリハビリデイサービスの役割」

講師 たなかクリニックリハビリテーション

室部長(理学療法士) 本村 清二 氏

ひびきリハビリデイサービスセンター

理学療法士 松井 浩章 氏



本村部長 松井理学療法士

●地域貢献セミナー

平成 27 年 3 月 6 日(金) 県社会福祉総合センター下記の内容で開催し 35 名の参加をいただきました。

テーマ：「今、問われる社会福祉法人の在り方と社会貢献の展望」

①講演：「今後の社会福祉法人の在り方と社会貢献について」

厚生労働省・社会福祉法人の在り方等に関する検討会構成員

社会福祉法人青山里会 常務理事 西元 幸雄 氏

②実践報告 1 「地域での自立生活を支える～社会貢献事業の実践から～」

大阪府社協老人施設部会・社会貢献事業推進委員会委員

四天王寺悲田院特別養護老人ホーム

施設長 氏家 幹夫 氏

③実践報告 2 「安心生活創造事業を活かした地域への展開」

特別養護老人ホームひびきの郷

在宅福祉課長 松山 大輔 氏



氏家 施設長



施設紹介

社会福祉法人 奈良市和楽園



社会福祉法人奈良市和楽園の歴史は古く、今年で83年目を迎えます。昭和初期の大恐慌時代に、当時の奈良市の民生児童委員の皆様が、貧困で孤独な高齢者を何とか救済しなければという使命感に基づき、浄財を募り、当初8名の収容施設として運営を始めたのが発端となっています。

以後この施設が、定員150名となり現在の養護老人ホーム和楽園へと引き継がれ、平成10年に奈良市が養護とともに特養、ケアハウスを建設し、在宅サービス事業所等を併設して、現在地に拠点を構えました。その後、当法人が奈良市より資産を取得し、事業運営を行い現在に至っています。

法人の役員の多くに、奈良市の民生児童委員協議会の幹部の方に就任いただくなど、奈良市の民児協が当法人

の運営に現在も関わっていただいております。県外の民児協関係機関からの視察も数多く受け入れております。

一拠点になった当初は、夏祭り等のイベントを法人全体で行うことが多かったのですが、特養利用者の重度化に伴い、施設種別によって自立度にかなりの差が生じてきているため、施設ごとにイベントを行うケースが増えています。

運動会もその一つで、特養、養護で個別に実施しました。運動会は、体を動かす数少ない機会でもありますので、利用者、入所者の皆様は楽しみにされています。



ご家族もおいでいただき、趣向を凝らしたゲームや軽スポーツに職員と一体となって笑顔が溢れる和気あいの非日常のひとときを楽しんでいただきました。



施設紹介

社会福祉法人 大和まほろば会

—人生の先達への敬意—

四季折々の美しい景観の高齢者介護福祉施設「かがやきのその」は、「人生の先達への敬意」を掲げどこに、創設以来9年が経過しました。特養ホーム（50名）・短期入所（10名）・通所介護（30名）・配食サービス等を提供するコンパクトな高齢者の複合施設で、「住みよい福祉のまちづくり施設賞」の優秀賞を受賞、その際、審査委員の先生から特に、「ユニットケアとして、家庭の延長線に立ったこの施設に、老人ホームの理想の姿を見ました。」との講評をいただきました。

個室のバルコニーからは古都奈良を一望、安らぎと懐かしみを感じる、文化的要素の高い内容のある施設としています。誇れる取り組みとしましては、第1に「自然の心地よさを感じる施設」として、広い敷地に万葉時代の花木を植栽して、常に万葉の花が咲く、万葉の森庭苑を設けており、環境公益財団より苗木の寄贈を受け、記念植樹祭を開催、そして野鳥の楽園（バードピア）に認定され、季節の移りかわりを実感できる施設としています。

第2に「毎日に彩りを加える活動」の一環として、かがやきホールに図書コーナーを設置して、かがやき文庫としています。蔵書としましては、世界遺産全集・日本美術全集・司馬遼太郎新紀行全集・その他時代小説・推理小説文庫等があり、利用者・入居者の皆様、生涯青春を目指してかがやいて活用されています。

第3に「食事は楽しみの時間」として、全国の郷土料理、

奈良の行事料理等を楽しみとして提供させていただいていますが、施設サービスの内容を在宅の皆様にお届けする“在宅を支える機能”として、昼食の配食サービスばかりでなく、利用者様の食事形態に合わせた“夕食幕の内弁当”のお持ち帰りで喜んでいただいています。

施設を希望される利用者様・家族様は、質の高い介護と居住環境を求められ、これからの特養ホームの在り方としては、高品質の介護はユニットケアの充実であり、認知症ケア・看取りケアはユニットケアだからこそ可能であると考えています。かがやきのそのでは、コンパクトで小規模の複合的施設こそが今後求められる介護福祉施設であると確信し、地域に開かれた将来展望のある全国に誇れる施設を目指しています。



図書コーナーを設けたかがやきホール


個室のバルコニーから見た
白く輝く雪の大仏殿


全長30mの竹製大そうめん流し大会



家族様・利用者様参加の記念植樹祭

施設紹介

社会福祉法人 広瀬福祉会



社会福祉法人広瀬福祉会 特別養護老人ホームせせらぎ苑は、昭和57年に開設し今年で33周年を迎えることができました。当苑は、特別養護老人ホームと短期生活介護事業を併設し、山辺郡山添村という名張川のせせらぎが聞こえる自然に恵まれた静かな環境のなか、楽しく穏やかに過ごしていただけるように努めています。

当苑では、いろいろな行事に取り組み、芸達者な職員のもと仮装にダンス、お芝居といろんなパフォーマンスを見せる開苑記念や敬老会、駐車場にやぐらを組んで提灯をつるし、雰囲気いっぱいの盆踊りやサンタクロース

とトナカイがプレゼントを持ってあらわれるクリスマス会など、ご利用者様に少しでも楽しいと思っていただけるように職員一同考えを絞っています。

これからも明るく家庭的な雰囲気有し、ご利用者様の笑顔あふれる苑を目指し、努力していきたいと思えます。



施設紹介

社会福祉法人 功有会



レッドコード

私たち功有会は「社会に功績のある組織作り」を経営理念に掲げ、この奈良の地で介護施設を6拠点で運営、介護力を30年間培って参りました。これは、ご利用者の皆様、ご家族、そしてここで働く私たちとの間に信頼と絆があって実現できたことだと思っております。

今日では在宅で生活をされているご利用者の支援、特にデイサービス事業・介護予防事業に力を入れており、レッドコードの導入、また温水プールや温泉などの設備を兼ね備えた施設を作ってきました。介護が必要なご利用

者のみならず地域の元気な高齢者の方にもご利用いただき、地域の社会資源として、また地域の皆様の交流の場として認識していただけるよう活動を行っております。

今後は、地域包括ケアシステム構築の要として24時間定期巡回型訪問介護・看護の実施、さらには法人全体の取り組みとして認知症予防プログラム「シナプソロジー」の導入等を予定しております。

これまで施設で培ってきたノウハウとマンパワーを生かし、今後とも地域の皆様に「ここには大和園があるから年をとっても安心だ」と思えていただける施設を目指し、『環境づくり』そして『人づくり』に努めてまいります。



くうるプール

施設
紹介

社会福祉法人 豊生会

わたしたちの「おもてなし」



平成8年4月1日に開設されましたデイサービスゆあほうむ榛原は、大和高原の豊かな自然に囲まれ、歴史的な名所も数多くあり、自然と共に楽しむことができる恵まれた環境の中にあります。そして、皆様においでいただくデイサービスのフロアは広々として明るく、開放的な雰囲気となっています。現在、ゆあほうむ榛原がある宇陀市の高齢化率は、県内12市中2番目に高く、今後さらに在宅福祉サービスとして質の高い、きめ細かなサービスの提供が必要とされています。

そのような状況だからこそ、ご利用様が、明るく笑顔で日々過ごしていただけるよう個別機能訓練、口腔機能向上サービスの実施やアクティビティサービスなど様々なサービスを提供させていただく中で、私たちにとって「笑い」は大切なサービスのひとつなのです。

ある日、介護実習に来られた緊張の面持ちの実習生に「わたしらをもっと笑かしてくれないとね。」と声をかけられているのを聞き、ご利用様が、デイサービスを「笑わせてくれるところ」と捉えてくださっているとしたら、こんなうれしいことはないと感じました。

フロアに響く笑い声と笑顔は、私たち職員のモチベーションにも繋がっています。「笑い」は、私たちのサービスにとって一番のおもてなしであると考えています。

施設
紹介

社会福祉法人 福住会

地域社会の中で、共に考え共に暮らす
デイサービスを目指して

福住光明苑デイサービスセンターは大和高原の自然に囲まれ、四季の移ろいを感じられる天理市福住町にございます。おかげさまをもちまして、社会福祉法人福住会は、今年4月に10年目を迎えることができました。

利用者本位の介護支援のもと、ご利用者・ご家族・スタッフそして地域の皆様と、共に考え共に暮らす『共生』を法人の基本理念に掲げ、地域社会の中で豊かな高齢者福祉の実現に日々精進しております。

当苑デイサービスセンターでは、お寿司の夕食や近隣スーパーでのショッピング、足湯への外出など各種イベントや、地元のこども園、小・中学生の訪問など、地域

の方々と交流していただく機会もございます。

また、常勤専従の機能訓練指導員を配置し、デイケアやリハビリ特化型短時間デイサービスにも負けないぐらい充実したリハビリの提供を目指し、各種マシンを用いたパワーリハビリプログラムによるバランス能力や筋力の向上に力を入れ、ご利用者やご家族の皆様からご好評いただいております。

今後もご利用者のQOL向上に少しでもお役に立てますよう、さまざまなイベント・レクリエーション、リハビリの提供を行い、地域社会の中で豊かに暮らすための手助けが出来る施設になれる様に、職員一同努力して参ります。



編集後記

今年度は介護報酬の改定に伴い、会員施設の皆様方も、多忙な毎日をご過ごされてきたことでしょう。

私は昨年度より施設長に就任し、奈良県老協の主催される様々な会合へ出席する機会を頂いていますが、会員施設の方々との交流の中で、新しい気づき、知識を得ることが多く、自身の仕事への取り組む姿勢を見直し、改善する良い機会となっています。

この本誌『あおによし』においても、奈良県老協の運営、事業の計画・報告を目にし、各種委員会活動等から高齢者福祉に携わる者としての地域、社会への貢献や、個人のスキルを磨く機会がいかに多く設けられ活動されているかを知ることができます。

これらの活動から、要介護者の増大が見込まれる2025年に向けて地域包括ケアシステムが推進されるなか、施設が地域において介護の拠点としての役割を担う為に成すべきことや、今後予想される平成30年の介護報酬、診療報酬の同時改定の際のサービス単価引き下げ等の様々な課題に対し、施設の壁を越え力強い助けとなってくれるのが奈良県老協という組織だと考えています。

私のような若輩者に、本誌の編集後記という大役を頂けた事への感謝と共に、今後、奈良県老協の更なる飛躍の為、少しでも力になれるよう自己研鑽に努めます。

郁楽苑 下村 貴也

事務局コラム



老人福祉施設協議会事務局を仰せつかりました、坂本真由美と申します。

さて、平成27年度がスタートし、部会・委員会では「どのように利用者に接すれば最善を期することができるか」、この思いにより制度等現場の状況を踏まえ、研修会・研究事業が実施されています。

その1つとして、第5回を迎えた「養護・軽費老人ホーム（ケアハウス）のオープンセミナー」では、県内外からご参加をいただき、民生委員さん等からも活発なご意見をいただきながら、養護・軽費の有する様々な機能を活かし、地域高齢者の支援を図っていく課題等を共有できた研修会となりました。

事務局として会議等に関わらせていただき、会員の皆様の情熱を強く感じています。微力ではありますが、皆様のお力になればと思っています。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



